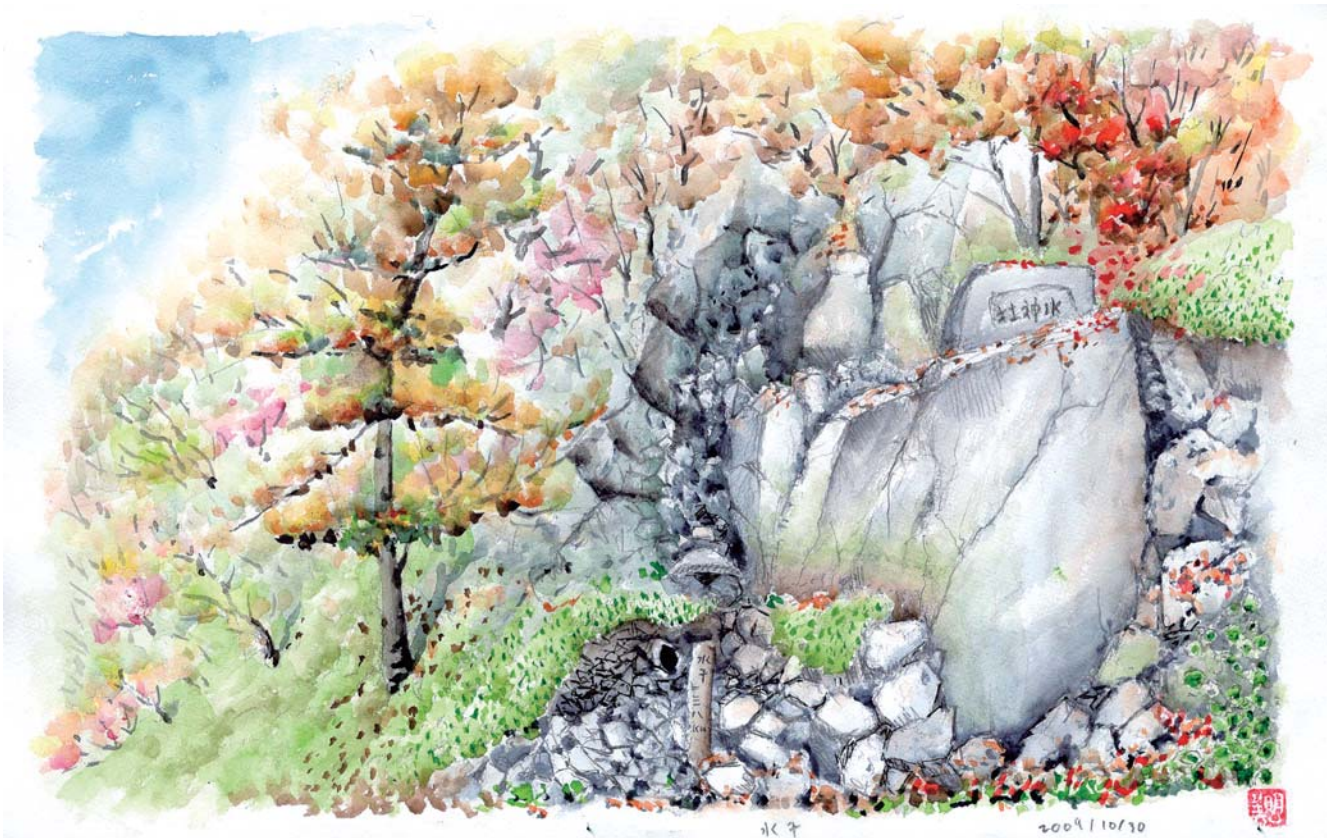
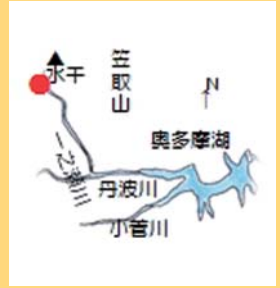


財団だより

第148号

2016.9

多摩川



■ 多摩川源流 水干 ■

画と文
工博 野尻明美
日野市在住

多摩川 138km の最初の 1 滴は笠取山の水干であるといわれており、本紙第 129 号の「多摩川スケッチ散歩 第 1 回」でも紹介した。

写真家遠藤氏から引き継ぎ、初めての表紙を飾るスケッチはやはり水干以外は無い。しかも、とりどりの色が競い合う秋景色がベスト。

多摩川という名称は奥多摩湖からであり、その上流のうち本流は丹波山川、一之瀬川となり、その溪谷の最後の突き当りが水干となる。

標高 1,953 m の笠取山の北側山腹に刻まれた岩の割れ目からしみ出す水が画面中央の案内丸太の左にある祠の中にポトリと落ちる雫が、多摩川 138km の最初の 1 滴であるとのこと。

落ち葉のじゅうたんを踏みしめながらよたよたと登ったが、確認することはできなかった。

Contents 目次

巻頭言	2
多摩川散歩	3
歴史・多摩川	4
インフォメ・多摩川	6
財団からのお知らせ	8

巻頭言

「復活」するアユの遡上



東京都 産業労働局
島しょ農林水産総合センター
主任研究員

高瀬 智洋

今年も多摩川にアユが遡上してきました。東京都による調査では、平成28年のアユの推定遡上数は463万尾で、引き続き高水準と評価しています。この遡上数ですが、近年、数百万尾が当たり前になってきましたが、ほんの数年前までは100万尾を超えるかどうか、「復活」の目安でした。



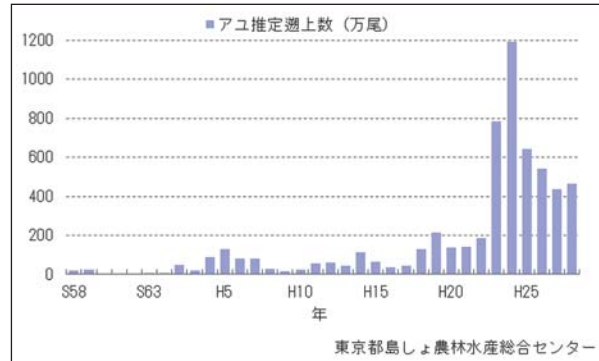
跳ねるアユ

多摩川で、東京都がアユの遡上数調査を開始したのは昭和58年までさかのぼります。かつては、高度経済成長による流域人口の増大と、それがもたらす産業および生活排水による水質悪化で、「死の川」とも称された多摩川でしたが、昭和45年の水質汚濁防止法の制定後、排水規制と公共下水道の整備が進み、徐々に水質が改善されていきました。十数年の間、姿を消していたアユが再び確認されたのは昭和50年になってから。その後、多摩川の最下流部に位置する調布取水堰下で滞留しているアユが確認されるようになり、当時の東京都水産試験場（現在は東京都島しょ農林水産総合センター）が、アユの資源量調査の一環として、多摩川下流部で遡上数調査を開始しました。

アユの遡上数調査は、毎年、3月下旬から5月末日までの期間に行われます。場所は調布取水堰より下流部とし、定置網を設置して、午前10時から翌午前10時までの24時間に入網したアユを計数します。初年度となった昭和58年の推定遡上数は18万尾でした。その後、昭和60年から平成元年までは10万尾を割り込む年が続き、平成2年に50万尾と数十万尾台に回復。そこから平成17年までは、一部の年で100万尾台となったものの、

長らく数十万尾台が続きましたが、平成18年に128万尾と100万尾台を突破。平成22年までは139～215万尾で推移しました。このように、「復活」の目安である100万尾を毎年超えるようになったのは、ほんの数年前のことです。

顕著に増えたのは、平成23年の783万尾。翌年の平成24年は1194万尾と初めて1000万尾を突破しました。その後は平成25年から28年まで、435～645万尾で推移しています。



平成23年、24年で急激に増えた理由については特定できていません。しかし、ここに至るまでに、更なる水質の改善、取水堰におけるアユの遡上を可能にする魚道の整備、アユ稚魚の放流や産卵場の造成など流域の漁協による増殖に向けた取り組みなどが行われており、これらの要因が関係したものと考えられます。

このように高水準の遡上が続くまでになった多摩川のアユですが、それでも中流を通過し、上流まで到達するものは未だ多くありません。その昔、上流域の山梨県丹波山村までアユが遡上したという話もあります。多摩川に遡上してくるアユを流域全体で広く活用していくため、東京都では多摩川中流のアユを捕獲して陸路で運搬、上流に放流する取り組みも始めたところです。

アユの遡上調査は、今後も続ける方針です。都民からの関心も高く、昨年、調査地に程近い小学校からの見学に応じた経緯もあり、今後は見学要請にも可能な範囲で対応する方向で検討を進めています。自然の大切さ、豊かさを発信する場にもなれば幸いです。



アユ遡上調査地点

多摩川散歩

■ 多摩川源流大学から ■



多摩川源流大学事務局
NPO法人多摩源流こすげ事務局
東京農業大学非常勤講師

石坂 真悟

源流でつなぐ

今年も多くの子ども達がこの多摩川源流へと足を運び、水の冷たさと源流の森の深さを体感してくれました。源流研究所が源流体験を始めて15年たち、多くの下流域の子ども達が源流で学んでもらい、源流を通して小菅村を知ってもらいました。当時から源流を案内していたスタッフから数回交替わりをしておりますが、今もなお源流体験スタイルである「自分の身は、自分で守る。水はいのち、森はみなもと、川はきずな」を伝え続けています。そして、多くの参加者の方がリピーターとなって、多摩川源流を応援して下さっていることに本当に毎年感謝しております。来年も無事故で、多くの方に感動してもらえる様な源流体験を提供できる様に案内していきたいと思っております。

さて、昨年より小菅村出身の大学生や高校生に声を掛け、一緒に源流体験に同行し手伝ってもらっています。多くの下流域の子ども達に源流体験の素晴らしさと楽しさを伝えるのは、私たちの仕事でもあります。源流体験を経験した地元の子供達が「体験する側」から「伝える側」に回ることで、新しい村の魅力の発見や源流体験スタッフの後継者になるのではないかと思います。一緒に案内しています。

村外の人でも、村出身の人でも源流の素晴らしさと楽しさを伝える人が今後もこの源流体験をきっかけに育ってくれればと思っています。



多摩川源流大学「秋の源流沢歩き」

初秋の多摩川源流を腰までの長靴（胴長）を履いて歩きます。夏とは違い落ち着いた森の中を歩きながら、ヤマメや木々を観察します。水に浸かることは無いので、冷たい思いをしなくて、源流を体験することができます。

開催日：平成28年10月10日（祝月）、17日（月）、24日（月）、11月7日（月）

募集定員：各回とも9名

協働：NPO法人多摩源流こすげ

※参加申込み・お問合せ等は「東京農業大学エクステンションセンター」のHPをご覧ください。

10月10日の回のみ、「NPO法人多摩源流こすげ」に直接お申込みください。



NPO法人多摩源流こすげ主催イベント

1. 【10/1（土）源流の夜を味わう休日】

小菅村の夜を存分に楽しむプログラムです。

夕暮れから日没にかけて活動を始めるムササビを探しに、真夜中は夜空の下で星と夜闇を堪能しに行きます。

プログラムのみ参加・あるいは一泊二日での参加を選ぶことができます。

皆様のご参加お待ちしております。

開催日：10月1日（土）16:15 JR上野原駅集合

参加費日帰り：大人5000円、子ども2500円（小学生以下）

2. 【10/10（祝月）秋の源流沢歩き】※上記のイベント案内をご覧ください。

NPO法人多摩源流こすげ主催のイベントや体験内容はHPよりご覧ください。また、ご不明な点などは電話でお問合せください。0428-87-7055



歴史 / 多摩川

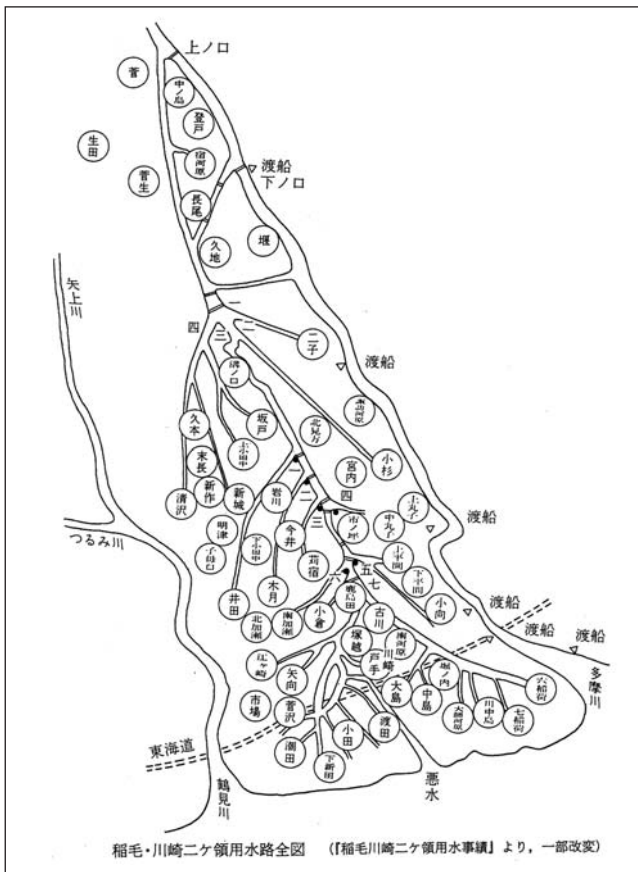
右岸の二ヶ領用水絵図



NPO 法人多摩川エコミュージアム
監事 長島 保
(地域史研究者)

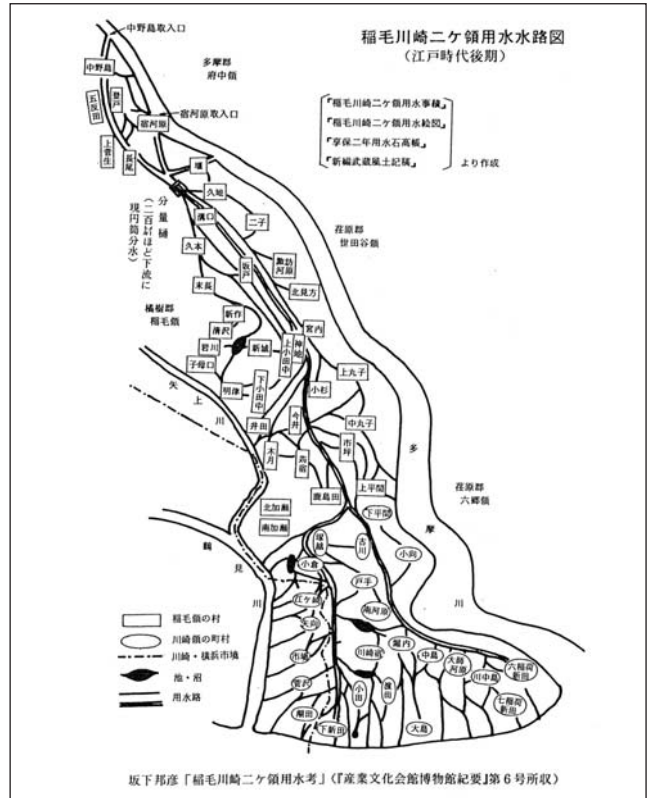
以前に、左岸の六郷用水に関わって書いたが、今回は、右岸（川崎側）一帯を潤した二ヶ領用水絵図をめぐって記そう。近世以降の用水路開削にともなう水路図は、左岸ではいまだ見たことがないが、右岸では、水がかり村々を網羅した水路図が紹介され、広まった。

この絵図、昭和初頭（1930年）に『稲毛川崎二ヶ領用水事績』を出版した山田蔵太郎が紹介した。その絵図には、58カ村におよぶ水がかり村々が記され、久地村分量樋下流の一ノ堰から七ノ堰までの位置なども、図示されている。



稲毛・川崎二ヶ領用水路全図（『稲毛川崎二ヶ領用水事績』より、一部改変）

稲毛・川崎二ヶ領用水路全図（川崎市史通史編2近世）



坂下邦彦「稲毛川崎二ヶ領用水考」(『産業文化会館博物館紀要』第6号所収)

昭和59年、坂下邦彦「産業文化会館博物館紀要」

ところが仔細にみると、横浜水道への通水路が記されたり、明治8年成立の生田村の記載などもある。実はこの絵図、明治になってからの作図なのだ。

しかも、観音川とおぼしき河口に、小さいく悪水と記すのみで、多数あった悪水堀にはふれていない。

この絵図が、あたかも江戸時代半ばすぎからの二ヶ領用水路全図と称して流布されてきた。

近年になり、ようやく『川崎市史・近世』（1994年）編で、「一部改変」との断り書きを入れたものの、大筋では山田＝用水事績を踏襲した。

ところで戦後の昭和59年、坂下邦彦が「産業文化会館博物館紀要」に、江戸時代後期の用水水路図を公表した。もちろん、山田＝用水事績も参考にしたが、他の江戸期の文献も渉猟した。この図が特長的なのは、数多くあった悪水路まで明示したことだ。悪水路と呼んでも、ドブ川ではない。排水路をいう。

水田耕作の大事なことは、田圃にひき入れた水が、絶えず流れていなければならない。堰上げて入った水は、次の田圃に落ちるか、悪水路に流れて、やがて近くの大川や海辺へと流れ下る。用水路を考えると、配るだけでは片手落ち。排水機能をもしっかりと見届けることだ。そうしないと、稲を育てることはできない。

インフォメ 多摩川

多摩川流域の各種団体等の9月から行われる環境活動に関する主な行事・イベント情報を紹介いたします。

☆ 美しい多摩川フォーラム

1. 多摩川“水”大学講座（9月16日：府中市・スクエア21女性センター）
2. 第9回たまりバー50キロ命名記念・RUN&WALK（10月8日：大田区～羽村市）
3. 多摩川“水”大学講座（10月21日：府中市・スクエア21女性センター）
4. 多摩川“水”大学講座（11月11日：府中市・スクエア21女性センター）
5. 美しい多摩川クリーンキャンペーン（11月12日：川崎市〈殿町第2公園〉、11月19日：多摩市〈一ノ宮公園〉、11月26日：青梅市〈御岳〉）
6. 第3回美しい多摩川フォト教室（11月25日：国営昭和記念公園内）
7. 第8回多摩川子ども環境シンポジウムを開催（12月10日：昭島市フォレスト・イン昭和館）

問合せ先

美しい多摩川フォーラム事務局（青梅信用金庫 地域貢献部内）

担当：宮坂ノ土方ノ及川

TEL：0428 - 24 - 5632 FAX：0428 - 24 - 4650

E-mail：forum@tama-river.jp URL：http://tama-river.jp

☆ みずとみどり研究会

第4回まるごと多摩川まつり・第46回多摩川流域セミナー 開催のお知らせ

多摩川流域11自治体交流 イベントラリー参加企画！！

日時 2016年9月18日（日）

午前『多摩川を歩く』9時30分～12時（事前申込）

二子玉川駅前から二子玉川公園を回って兵庫島まで多摩川の見どころを歩きます。

午後『多摩川流域セミナー』13時～16時

「二子玉川発 たまがわとつながるまちづくり」をテーマに市民、行政、学生、子どもたち、様々な方に話題を提供していただき意見交換なども行います。

午後『いい川づくり交流ひろば』12時～16時（ガサガサ体験のみ事前申込）

- ・水辺ガサガサ体験（小学生以上 小学3年生までは保護者同伴）
- ・降雨体験車
- ・源流の丸太切り体験コーナー
- ・ストーンペインティング
- ・多摩川検定
- ・炊き出し訓練
- ・多摩川のアユの塩焼き（イベント参加賞、数に限りあり）など

場所 午前『多摩川を歩く』二子玉川駅 東口付近ひろば集合

（東急田園都市線、大井町線分または川崎駅よりバス利用）

午後『多摩川流域セミナー』東京都市大学夢キャンパス

『いい川づくり交流ひろば』兵庫島公園内

会場や天気などの状況によりプログラムが変更になる場合がございます。

詳しくは下記ホームページをご覧ください。事務局へお問い合わせください。

参加費 『多摩川を歩く』50円（保険代） その他イベント参加、多摩川アユの塩焼きなどは無料

詳細 京浜河川事務所ホームページ <http://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/keihin00123.html>

主催 多摩川流域懇談会（市民（団体）・多摩川流域3自治体・河川管理者など）

共催 多摩川流域協議会（多摩川流域の1都2県30市区町村と国土交通省）

協力 東京都市大学

お申込・お問合せ先：多摩川流域懇談会事務局 みずとみどり研究会

連絡先 TEL/FAX 042-327-3169 E-mail：mizutomidoriken@ybb.ne.jp

☆ むさしの化石塾

2016年10月16日(日)10時-14時 多摩川化石採集会

10月30日(日)10時-14時 多摩川化石採集会

参加方法

興味のある方は、メールにて氏名・住所・連絡先・氏名・学年・参加希望の理由を明記の上、
むさしの化石塾 geo@extra.ocn.ne.jpまで申し込みの為の、送信をお願いします。

GeoWonder 企画 むさしの化石塾

〒208-0003 東京都武蔵村山市中央3-20-7 MKJ事務所

Musashino School of Paleontology

むさしの化石館 042-567-1095 (FAX)

むさしの化石塾 代表 福嶋 徹 090-1769-8020

☆ 川崎市域水辺の楽校

かわさき水辺の楽校	だいし水辺の楽校	とどろき水辺の楽校
9月4日(日) 魚つかみ	9月3日(土) ハゼ釣り教室	9月22日(祝木) 川の安全教室・河童の川流れ
9月17日(土)かわさき・だいし合同 ハゼ釣り教室		9月17日(土) 環境総合研究所干潟観察会 9月22日(祝木) 川の安全教室&水中撮影会
10月23日(日) 今季最後の魚釣り	10月15日(土) ハゼ釣り教室 フエスタ 永山尚太ライブステージ	10月9日(日)多摩川E体験 Eポート競走・野点大会 10月30日(日) 丸子の渡し祭り

国土交通省河川協力団体 とどろき水辺の楽校

(運営) NPO法人 とどろき水辺 理事:事務局 鈴木 眞智子

212-0004川崎市幸区小向西町3丁目64

電話・FAX 044-201-1493 携帯:090-5814-9604

Eメール:machiko@todoroki.org info@todoroki.org

HP:http://www.todoroki.org/

☆ 多摩川大学ふれあい移動水族館

主なイベントです、ぜひご参加ください。

9月下旬 多摩川親子釣り教室 ブラックバスを釣ろう

10月初旬 多摩川投網教室

11月中旬 おさかなポスト見学・学習会 多摩川美化活動

12月中旬 おさかなポスト見学・学習会 多摩川美化活動

詳細はメールか電話にてお問い合わせください。

* ふれあい移動水族館・おさかなポストの会 代表 山崎充哲

メールアドレス RiverRanger777@gmail.com TEL: 090 - 3209 - 1390

☆ 一般財団法人 世田谷トラストまちづくり

秋のバードウォッチング<親子観察会> ~ 野川周辺

・11月26日(土) 午前9時30分~11時30分 要申込

秋のみつ池体験教室~成城みつ池緑地

・11月26日(土) 午前10時~午後2時 要申込

世田谷トラストまちづくりビジターセンター ~ 世田谷区成城4-29-1 (野川沿い)

・「身近な自然と触れ合うミニイベント」原則毎月第3土曜日 午後1時30分~3時
要申込 / TEL : 03-3789-6111

・「みどりの上映会」

毎週土曜日の午前10時~正午、午後1時~3時 随時・申込不要

【申込・問い合わせ先】(一財)世田谷トラストまちづくり トラストまちづくり課

TEL : 03 - 6407 - 3311 FAX : 03 - 6407 - 3319

財団HP <http://www.setagayatm.or.jp/>

■平成28年度 研究助成金 受領者一覧■

1 新規 学術研究

(単位：円)

	研究課題	代表研究者	所属	研究期間	2016年度 助成金額
1	多摩川上流域における落葉分解性水生不完全菌類の多様性とその落葉破砕食水生昆虫に対する意義の解明	佐藤 大樹	国立研究開発法人森林総合研究所森林昆虫研究領域 昆虫生態研究室長	2年	2,000,000
2	多摩川河口域に飛来する野鳥の保護にむけた寄生虫感染状況の調査	佐藤 哲生	千葉大学大学院医学研究院感染生体防御学 特任助教	2年	1,990,200
3	多摩川中流域に残存する谷戸地形（都立農業高等学校附属神代農場）の生物多様性に関する研究と谷戸地を利用した環境教育	小作 明則	一般財団法人進化生物学研究所	2年	1,090,000
4	多摩川の河口干潟における珪藻の種多様性と群集ダイナミクスの解明	真山 茂樹	東京学芸大学教育学部 教授	2年	1,954,050
合 計（4件）					7,034,250

2 新規 一般研究

(単位：円)

	研究課題	代表研究者	所属	研究期間	2016年度 助成金額
1	浅川流域における野鳥の長期間継続調査結果から見た動向及び環境変化との関連を考察する調査研究	粕谷 和夫	八王子・日野カワセミ会 会長	1年	800,000
2	品川用水における水利施設遺構の残存状況調査	渡部 一二	水縁空間デザイン研究所 代表	1年	997,020
3	多摩川中流域におけるカヤネズミ生息情報マップの作成と保全の提言	井上 太志	自然観察活動チームWild Lives Watchers 代表	2年	91,190
4	生き物の生息に配慮して改修した農業水路の市民参加型モニタリング調査	西田 一也	東京農工大学農学府・農学部 非常勤講師	2年	772,170
5	「野川湧水回廊」の価値づけと地下水保全のための調査研究	神谷 博	みずとみどり研究会	1年	818,000
6	「環境省レッドデータブック2014」の絶滅危惧「類モリアブラコウモリは多摩川流域にいつ、どこに棲んでいるのか？」	重昆 達也	東京コウモリ研究会 代表	2年	560,000
7	玉川上水・分水網の構成と関連遺構に関する調査（その2）	辻野五郎丸	玉川上水域研究会 代表	1年	1,000,000
合 計（7件）					5,038,380

3 継続 学術研究

(単位：円)

	研究課題	代表研究者	所属	研究期間	2016年度 助成金額
1	多摩川流域におけるダニの生息分布調査およびダニ媒介性人獣共通感染症調査	堀田こずえ	東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻獣医公衆衛生学教室 助教	2年	1,268,000
2	多摩川集水域における底質中の放射能セシウムの30年後を見据えた挙動解析	小池 裕也	明治大学理工学部 専任講師	2年	2,000,000
3	多摩川上流域に生息するニホンジカの遺伝構造・遺伝的多様性の評価	溝口 康	明治大学農学部 准教授	2年	2,000,000
4	近代多摩川と皇室 - 鮎献上と多摩地域の聖蹟化に関する歴史学的研究	吉岡 拓	恵泉女学園大学人文学部 特任助教	2年	144,250
5	多摩川下流低地における地下水環境と地盤変動の変遷	愛知 正温	東京大学大学院新領域創成科学研究科 講師	2年	1,500,000
6	多摩川中流部における樹林伐根跡地の植生変化と立地との関係	和田美貴代	熊本大学薬学部機能性食品共同研究講座	2年	153,630
7	多摩川上流域の生態系を育む河床藻類を支える窒素固定細菌の多様性と役割	春田 伸	首都大学東京理工学研究科 准教授	2年	2,000,000
合 計（7件）					9,065,880

4 継続 一般研究

(単位：円)

	研究課題	代表研究者	所属	研究期間	2016年度 助成金額
1	多摩川中流域並びにその支流域における放射能の土壌汚染と生体に対する影響について	清宮 祥子	特定非営利活動法人R.I.La 理事長	2年	491,800
2	御岳山地域ニホンジカ生息調査 - 絶滅危惧種レンゲショウマの群生地を守るために -	田畑 伊織	かもしかの会 代表	2年	142,000
3	多摩川流域山地の伐採跡地を利用する鳥類に関する研究	山口 孝	多摩クマタカ生態調査チーム 代表	2年	143,200
合 計（3件）					777,000
総 合 計（21件）					21,915,510

財団からのお知らせ — 助成研究募集のご案内 —

多摩川およびその流域の環境浄化に関する 基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究・活動助成の募集

公益財団法人とうきゅう環境財団（理事長 鈴木克久）は、1975年（昭和50年）より、多摩川およびその流域の環境浄化の促進や自然環境の保全などに必要な調査や試験研究を毎年公募してきました。その結果、これ迄に1,209件（新規・継続—学術研究755件、一般研究454件、14億26百万円）の調査・試験研究のお手伝いをさせていただきました。

2017年（平成29年）4月からの助成についても、従来と同様、意欲的な調査や試験研究を募集致します。

1. 応募資格者

下記研究対象テーマに掲げた調査や試験研究に意欲のある方であれば、どなたでもご応募いただけます。

2. 助成研究対象テーマ

産業活動または住生活と多摩川およびその流域との関係に関する調査および試験研究
排水・廃棄物等による多摩川の汚染の防除に関する調査および試験研究
多摩川およびその流域における水の利用に関する調査および試験研究
シンポジウム、音楽会あるいは出版等による環境啓発活動や、歴史的な遺産あるいは社会システムの維持保全・回復運動等、多摩川及びその流域における環境保全や文化の創造に広く寄与するもの。

3. 応募方法

当財団所定の申請書に必要事項を記入、捺印の上、財団宛ご提出下さい。

「募集要項」「申請書」はホームページ上からダウンロードして下さい。

<http://www.tokyuenv.or.jp/invite>

4. 助成の決定

2017年（平成29年）3月に開催予定の当財団選考委員会で選考のうえ、理事会に諮って最終的に決定致します。

5. 応募締切日 2017年（平成29年）1月13日（金）消印有効

6. 応募にあたっての注意事項

ご応募にあたっては当財団の定める「調査・試験研究助成に関する調査・試験研究の選定基準、助成の方法、調査・試験研究の実施方法、助成金の支払い方法ならびに調査・試験研究者の個人情報保護の方法に関する規程」を必ずお読み下さい。

過年度に不採用となった調査や研究の再応募は受付けておりませんので、同一の調査・試験研究課題で再応募される場合は、前回のものと調査や試験研究の内容のちがいがよく判るよう工夫して、申請書をご作成下さい。

（次ページへ続く）

7. 助成研究の種別と諸条件

研究の種別	学術研究	一般研究
研究の区別	環境問題改善のための調査や試験研究で、専門性が高く、その分野の学識経験を必要とするもの。 (財団のホームページで過去の研究事例をご参照下さい。)	環境問題改善のための調査や試験研究で、一般の市民が、特別な学識経験を必要とせず取り組めるもの。
1件当たりの助成金総額の上限額	400万円	100万円
単年度の助成金上限額	200万円	100万円
研究期間	最長2ヶ年	最長2ヶ年
助成対象費目 (1) 器具備品費 (2) 消耗品費 (3) 旅費 (4) 謝金 (5) その他	直接研究に使用する器具備品で一個、又は一式10万円以上の固定資産。 調査や試験研究に用いる各種材料、部品、薬品等。 調査や試験研究のための交通費、宿泊費等。 調査や試験研究のために臨時に雇った人の謝金等。 器機・設備などの賃借料、通信費、その他。	
尚、一般研究については、従来からの調査・試験研究に加えて、シンポジウム、音楽会あるいは出版等による環境啓発活動や、歴史的な遺産あるいは社会システムの維持保全・回復運動等、多摩川およびその流域における環境保全や文化の創造に広く寄与すると思われるものも選考の対象といたしましたので、奮ってご応募下さい。		

▶ 当財団の概要

公益財団法人移行 2010年10月1日(設立1973年8月28日)
 主務官庁 内閣府
 基本財産 978百万円
 財源 基本財産等の運用収入並びに寄付金
 事業内容 研究助成事業
 1 研究助成 総助成件数 1,209件
 (学術755件、一般454件)
 総助成金額 1,426百万円
 2 学習支援 副読本制作配布 290千部
 印刷刊行物 研究助成成果報告書学術編
 研究助成成果報告書一般編
 環境副読本(毎年)7,000部

[常務理事]
[監事]
[評議員]

[選考委員]
(は委員長)

中村良夫 東京工業大学 名誉教授
 三木千壽 東京都市大学 学長
 涌井史郎 東京都市大学 特別教授
 小野木喜博 当財団 事務局長
 長田忠千代 東京急行電鉄株式会社 常勤監査役
 上野孝 横浜商工会議所 会頭
 海老原大樹 東京都市大学 名誉教授
 大井明 公益財団法人とうきゅう留学生奨学財団 理事長
 越村敏昭 東京急行電鉄株式会社 取締役相談役
 外川満夫 株式会社東芝 営業統括部 総合営業部長
 高橋信吾 東京大学 名誉教授 / 選考委員長
 サントリーホールディングス株式会社 取締役副会長
 株式会社日立製作所 鉄道ビジネスユニット マネージングダイレクター
 山田長満 川崎商工会議所 会頭
 渡邊功 東京急行電鉄株式会社 取締役専務執行役員
 高橋裕 東京大学 名誉教授
 奥山文弥 東京海洋大学 客員教授
 小堀洋美 東京都市大学 特別教授
 小宮輝之 上野動物園 元園長
 齋藤潮 東京工業大学大学院 教授
 新藤静夫 千葉大学 名誉教授
 鈴木信夫 昭和女子大学客員教授 千葉大学名誉教授
 田畑貞寿 千葉大学 名誉教授
 土屋十囀 前橋工科大学 名誉教授
 寺西俊一 帝京大学経済学部教授 一橋大学名誉教授

▶ 役員・評議員

(敬称略50音順)

[理事長] 鈴木克久 東京急行電鉄株式会社 顧問
 [理事] 池島政廣 亜細亜大学経営学部経営学科教授
 石渡恒夫 京浜急行電鉄株式会社 取締役会長
 大須賀頼彦 小田急電鉄株式会社 取締役会長
 加藤 隼 京王電鉄株式会社 取締役相談役
 金指 潔 東急不動産ホールディングス株式会社 代表取締役会長
 小長 啓一 東京急行電鉄株式会社 取締役
 小沼 通二 東京都市大学 名誉教授

発行日 平成28年9月1日
 編集兼発行 公益財団法人とうきゅう環境財団
 〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14
 (渋谷地下鉄ビル5F)
 TEL (03)3400-9142
 FAX (03)3400-9141
 ホームページ <http://www.tokyuenv.or.jp/>

